



昭和大学上條記念館

上條記念館グランドオープン記念

展

刻

書



「書、彫刻、絵画」の要素が入った総合芸術
刻書の多様性を表現した刻書芸術会「創」グループによる作品多数展示！！



会期 5月29日(水)～7月4日(木)

来館方法 予約窓口:03-3784-8030

(平日9:30～16:00)

前日までにお電話にて下記をお知らせください

①来館希望日(平日・土日祝開館)

②来館希望時間(10:00～16:00開館)

入場料 無料

会場

昭和大学上條記念館 地下1階ホワイエ
〒142-0064 東京都品川区旗の台1-1-20

その他
お問い合わせは

昭和大学総務部企画課

TEL 03-3784-8387

URL https://90th-showa.jp/kamijo_memorial_hall/

新井 平八郎（薬学部第一回生）

2016年に私は「刻書」の女流3人衆の刻書展を見に行ったとき、書にもこのような世界が展開されているのだということに感動し刻書芸術会「創」に入会、刻書の世界に飛び込みその魅力の虜になりました。

昭和大学の建学の精神の「至誠一貫」の刻書（材：キハダ、彫り：陽刻、35×120cm、第40回記念深谷市美術家協会展 県知事賞受賞）を寄贈させて頂きました。



刻書「至誠一貫」

◆本展のみどころ

刻書とは

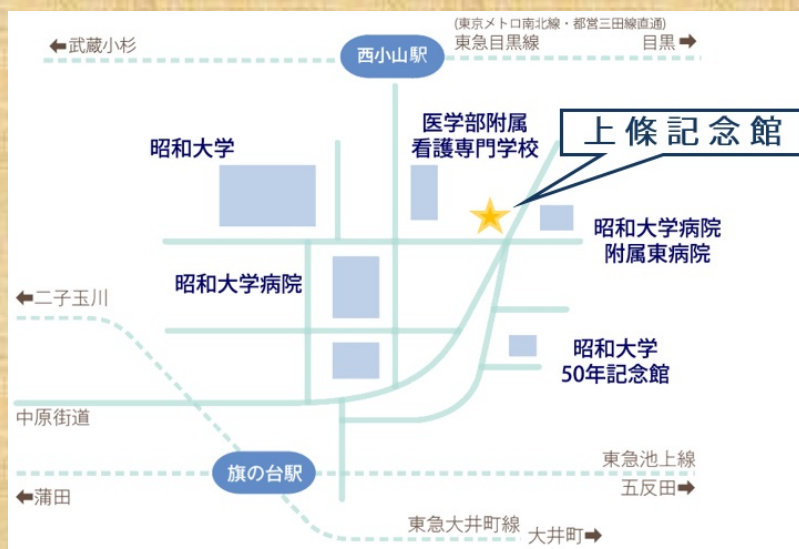
『刻書』とは、1961年小林石寿（徳太郎）先生（深谷市生まれ）によって考案されたもので、歴史の浅い芸術で、知る人も多くはないのが現状です。

書が書線と黒一色の変化を相関させ、多様な表情を生み出そうとする業であるのに対し、刻書は、ノミという金属刃物で何百回と打ち下ろすハンマーの打撃エネルギーが、表情となって表れる。これが刻書の特質である。さらに刻し方の工夫による陰影と立体感、光の反射による変化、彩色による感覚の相乗効果が演出される。漢字を持たない国の人々が見ても、そのメッセージを理解できる部分が多いことも魅力の一つである。

「刻書」を端的に言えば、板材に書を「ノミ」で刻し色彩と陰影で表現した作品で、「書、彫刻、絵画」の要素が入った総合芸術であると言えます。

刻書芸術会「創」による作品多数

指導者（敬称略）：上吉原薫峰（会長）、春原郁香、木村宏葉、馬場良紅



昭和大学上條記念館

東急池上線・大井町線「旗の台駅」徒歩7分

東急目黒線「西小山駅」徒歩12分

（東京メトロ南北線・都営三田線直通）

※会場には駐車場がございませんので
公共交通機関でご来場ください。